

村章 (昭和52年8月27日制定)

「ニシハラ」の「ニ」を図案化し、曲線は村民の柔軟性を表し、白抜きの部分は山・丘・牧場を表し、全体として村民の融和と郷土と共に飛躍していく姿を図案化したものです。



村花 「野 菊」(忍耐力・生命力)

ノコンギク、ヨメナ、ユウガギク等の野に咲く菊類の総称で、その中でも薄紫のノコンギクが大半を占めています。村内のいたるところに繁殖しており清楚、純粹、野性的で、忍耐力、生命力が強く、北風に吹かれながらも野辺でやさしく香る可憐な花です。



村木 「どんぐり」(清潔)

一般に“どんぐり”はブナ科のカシ、クヌギ、ナラ等の木の実を指しますが、本村では、特にクヌギの代名詞となっています。山、雑木林、田畑の畦畔等に多く見られ樹高20mにも達します。



村鳥 「き じ」(情愛)

村内の山林、原野に数多く生息し、一年中観察することができます。まれに畑地に現れることがあります。きじは、色彩が鮮やかで大変美しく、昔から狩猟の対象として狙われて来たため非常に用心深く、子育てが上手です。「焼野のキギス」のことわざにもあるように、野火に自分の羽は焼かれても子供をしっかりと守るほどで、大変親子の情愛の深い鳥です。日本昔ばなしにも登場し、賢く勇気ある鳥とされています。



西原村民憲章

わたしたち西原村民は

- 一、豊かな自然を守り、環境をととのえ、清潔で美しい村を作ります。
- 一、先祖を敬い、伝統ときまりを守り、文化をおこし、住みよい村をつくります。
- 一、健康に気をつけて、幸福で明るい家庭を築き、体力を練り、勤労に励みます。
- 一、教育を高め、進んで事にあたり、創造と個性あふれる村をつくります。
- 一、お互いに親切さと思いやりをもち、あいさつと、心豊かな村づくりをします。

西原音頭

作詞 小城 要
作編曲 岩代 浩一

一、阿蘇は朝焼け 鞍岳染めて

仰ぐお空にや 俵山

見せてやりたや 高遊原を

浮かぶ絵姿 春霞くく

囃子 サツサと輪になれ丸くなれ

ドンドン ドドント

ドドントドント丸くなれ (囃子以下同じ)

二、揃い浴衣の 西原乙女

どれが姉やら 妹やら

踊る手振りに 若衆も惚れて

幼馴染みの 縁結びくく

三、親が築いた 大切畑の

水でうるおす 大耕地

滝の白糸 紅葉にしぶきや

揺れる穂波は 黄金色くく

四、花の空港の 国際空港

飛べば世界も ひとまたぎ

粹な中岳 情けで燃えりや

銀の翼も 夢心地くく